

觀

音

經

生活信条

いちにちいちど
一日一度は静かに坐って
からだ
身と呼吸と心を

ととの
調えましょう

にんげん
人間の尊さにめざめ
じぶん
自分の生活も他人の
せいかつ
生活も大切にしましょう

い
生かされている自分を感じ
じぶん
自分の生活を感謝し
ほうおん
報恩の行を
つ
積みましよう

信心のことば

わが身みをこのまま空くうなりと観かんじて 静しずかに
坐すわりましょう

衆生しゆじようは本来佛ほんらいぼつなりと信しんじて 拜おがんでゆき
ましょう

社会しゃかいを心こころの花はな園ぞのと念ねんじて 和なごやかに生いき
ましょう

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

爾時 無尽意菩薩 即從座起 偏袒右肩

合掌向仏 而作是言 世尊 觀世音菩薩

以何因縁 名觀世音 仏告無尽意菩薩 善

男子 若有無量百千萬億衆生 受諸苦惱

聞是觀世音菩薩 一心称名 觀世音菩薩

即時そくじ觀かん其ご音おん聲じょう
皆かい得とく解げ脫だつ

若有にやくう持じ是ぜ觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さ名みやう者しや

設せつ入にゆう大だい火か
火か不ふ

能のう燒しょう 由ゆ是ぜ菩ぼ薩さ威い神じん力りき故こ

若にやく為い大だい水すい所しやう漂ひよう 稱しやう其ご名みやう号ごう
即そく得とく淺せん処しよ

若にやく有う百ひやく千せん万まん億のく衆しゆう生じよう 為い求ぐ金こん 銀ごん 瑠る璃り 碑しや

磈こ 碼め碯のう 珊瑚さんご 琥こ珀はく 真しん珠じゆう等とう宝ほう 入にゆう於お大だい

海かい 假使けし黒風こくふう 吹すい其ご船舫せんぼう 飄墮ひようだ羅刹らせつ鬼国きこく

其中ごちゆう若有にやく乃至うない一人しいちにん称しょう觀世音かんぜおん菩薩ぼさ名者みょうしや 是ぜ

諸人等しよにんとう 皆得かいとく解脱げだつ羅刹らせつ之難しなん 以い是ぜ因縁いんねん 名みょう

觀世音かんぜおん

若復にやくぶ有人うにん 臨当りんとう被害ひがい 称しょう觀世音かんぜおん菩薩ぼさ名者みょうしや

彼所執刀杖ひしよしゆうとうじょう 尋段段壞じんだんだんえ 而得解脱にとくげだつ

若三千大千国土にやくさんぜんだいせんこくど 満中夜叉羅刹まんじゅうやしやらせつ 欲來惱人よくらいのうにん

聞其稱觀世音菩薩名者もんごしょうかんぜおんぼさみょうしや 是諸惡鬼ぜしよあくき 尚不能しやうふのう

以惡眼視之いあくげんじし 況復加害きやうぶかがい

設復有人せつぷうにん 若有罪にやくうざい 若無罪にやくむざい 杻械枷鎖ちゅうかいかさ 檢けん

繫其身げごしん 稱觀世音菩薩名者しょうかんぜおんぼさみょうしや 皆悉斷壞かいしつだんえ 即そく

得解脫とくげだつ 若三千大千国土にやくさんぜんだいせんこくど 満中怨賊まんちゅうおんぞく 有一ういち

商主しょうしゅ 将諸商人しょうしよしょうにん 齋持重宝さいじじゅうほう 經過險路きょうかけんろ 其ご

中一人ちゅういちにん 作是唱言さぜしょうごん 諸善男子しよぜんなんし 勿得恐怖もつとくくふ

汝等にょとう 应当一心おうとういつしん 称觀世音菩薩名号しょうくわんせおんぼさみょうごう 是菩薩ぜぼさ

能以無畏のういむい 施於衆生せおしゆじょう 汝等若称名者にょとうにやくしょうみょうしや 於此おし

怨賊おんぞく 当得解脱とうとくげだつ 衆商人間しゆしょうにんもん 俱发声言ぐほつしょうごん 南な

無觀世音菩薩むかんぜおんぼさ 称其名故しょうごみょうこ 即得解脱そくとくげだつ

無む尽じん意に

觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さ摩ま訶か薩さ

威い神じん之し力りき

巍ぎ

巍ぎ如によ是ぜ

若にやく有う衆しゆ生じよう

多た於お姪いん欲よく

常じよう念ねん恭く敬ぎよう觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さ

便べん得とく離り欲よく

若にやく多た瞋しん恚に

常じよう念ねん恭く敬ぎよう觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さ

便べん得とく離り瞋しん

若にやく多た愚ぐ癡ち

常じよう念ねん恭く敬ぎよう觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さ

便べん得とく離り癡ち

無む尽じん意に

觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さ

有う如によ是ぜ等とう

大威神力多所饒益 是故衆生 常信心念

若有女人 設欲求男 禮拜供養觀世音菩薩

薩 便生福德智慧之男 設欲求女 便生端

正有相之女 宿植德本 衆人愛敬 無尽意

觀世音菩薩 有如是力 若有衆生 恭敬禮

拜觀世音菩薩 福不唐捐

是ぜ故こ衆しゆ生じよう

皆かい心おう受じゆ持かん觀ぜ世おん音ぼ菩さ薩みよう名ごう号

無む尽じん

意に若やく有う人にん

受じゆ持じろく六じゆう十に二お億く恒ごう河が沙しゃ菩ぼ薩さ名みよう字じ

復ぶ尽じん形ぎよう

供く養よう飲おん食じき

衣え服ふく

臥が具ぐ

医い藥やく

於お

汝によ意いうん云が何

是ぜ善ぜん男なん子し

善ぜん女にょ人にん

功く德どく多た不ふ

無む尽じん意に言ごん

甚じん多た

世せ尊そん

仏ぶつ言ごん

若にやく復ぶ有う人にん

受じゆ持じ觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さ名みよう号ごう

乃ない至し一いち時じ

礼らい拜はい供く養よう

是ぜ二に人にん福ふく 正しょう等とう無む異い
於お百ひやく千せん万まん億のつ劫こう 不ふ可か

窮ぐう尽じん 無む尽じん意に 受じゆ持じ觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さ名み号よう
得とく如によ

是ぜ無む量りよう無む辺へん福ふく德とく之し利り

無む尽じん意に菩ぼ薩さ 白びやく仏ぶつ言ごん 世せ尊そん 觀かん世ぜ音おん菩ぼ薩さ

云うん何が遊ゆう此し娑しゃ婆ば世せ界かい 云うん何が而に為い衆しゆ生じよう説せつ法ぽう 方ほう

便べん之し力りき 其ご事じうん云が何が 仏ぶつ告ごう無む尽じん意に菩ぼ薩さ 善ぜん男なん

子し 若有にやくう 国土衆生こくどしゅうじよう 応おう以い 仏身得度者ぶつしんとくどしや 觀世かんぜ

音菩薩おんぼさ 即現そくげん 仏身而為ぶつしんに 說法いせつぽう 應おう以い 辟支びやくし 仏身ぶつしん

得度者とくどしや 即現そくげん 辟支びやくし 仏身而為ぶつしんに 說法いせつぽう 應おう以い 聲聞しょうもん

身得度者しんとくどしや 即現そくげん 聲聞しょうもん 身而為しんに 說法いせつぽう 應おう以い 梵王ぼんのう

身得度者しんとくどしや 即現そくげん 梵王ぼんのう 身而為しんに 說法いせつぽう 應おう以い 帝釈たいしゃく

身得度者しんとくどしや 即現そくげん 帝釈たいしゃく 身而為しんに 說法いせつぽう 應おう以い 自在じざい

てんしんとくどしや
天身得度者

そくげんじざいてんしんにいせつぼう
即現自在天身而為説法

おうい
応以

だいいざいてんしんとくどしや
大自在天身得度者

そくげんだいじざいてんしんにいせつ
即現大自在天身而為説

ぼう
法 応おう以い天てん大だい将しょう軍ぐん身しん得とく度ど者しや

そくげんてんだいしょう
即現天大将

ぐんしんにいせつぼう
軍身而為説法

おういびしやもんしんとくどしや
応以毘沙門身得度者

そくげん
即現

びしやもんしんにいせつぼう
毘沙門身而為説法

おういしょうおうしんとくどしや
応以小王身得度者

そく
即

げんしょうおうしんにいせつぼう
現小王身而為説法

おういちようじゃしんとくどしや
応以長者身得度者

そく
即

現げん長ちやう者じゃ身しん而に為い説せつ法ぽう

応おう以い居こ士じ身しん得とく度ど者しや

即そく

現げん居こ士じ身しん而に為い説せつ法ぽう

応おう以い宰さい官かん身しん得とく度ど者しや

即そく

現げん宰さい官かん身しん而に為い説せつ法ぽう

應おう以い婆ば羅ら門もん身しん得とく度ど者しや

即そく現げん婆ば羅ら門もん身しん而に為い説せつ法ぽう

應おう以い比ひ丘く

比ひ丘く尼に

優う婆ぼ塞そく

優う婆ぼ夷い身しん得とく度ど者しや

即そく現げん比ひ丘く

比ひ丘く

尼に

優う婆ぼ塞そく

優う婆ぼ夷い身しん而に為い説せつ法ぽう

應おう以い長ちやう者じゃ

居士 こじ

宰官 さいかん

婆羅門 ばらもん

婦女身得度者 ぶによしんとくどしや

即現 そくげん

婦女身而為說法 ぶによしんにいせつぼう

應以童男 おういどうなん

童女身得度者 どうによしんとくどしや

即現童男 そくげんどうなん

童女身而為說法 どうによしんにいせつぼう

應以天龍 おういてんりゆう

夜 や

叉 しや

乾闥婆 けんたつば

阿脩羅 あしゆら

迦樓羅 かるら

緊那羅 きんなら

摩 ま

睺羅伽 ごらか

人非人等身得度者 にんびにんとうしんとくどしや

即皆現之而為 そくかいげんしにい

說法 せつぼう

應以執金剛神得度者 おういしゅうこんごうじんとくどしや

即現執金剛神 そくげんしゅうこんごうじん

而為說法

無尽意

是觀世音菩薩

成就如

是功德

以種種形

遊諸国土

度脱衆生

是故汝等

应当一心供養觀世音菩薩

是觀

世音菩薩摩訶薩

於怖畏急難之中

能施無

畏 是故此娑婆世界

皆号之

為施無畏者

無尽意菩薩

白仏言

世尊

我今當供養

觀世音菩薩 即解頸衆宝珠瓔珞伽直

百千兩金 而以与之作是言 仁者 受此法

施珍宝瓔珞 時觀世音菩薩 不肯受之 無

尽意 復白觀世音菩薩言 仁者 愍我等故

受此瓔珞 爾時 仏告觀世音菩薩 當愍此無

尽意菩薩 及四衆天龍 夜叉 乾闥婆 阿

脩羅しゅうら

迦樓羅かろうら

緊那羅きんなら

摩睺羅伽まごらか

人非人にんびにん

等故とうこ

受是瓔珞じゆぜようらく

即時觀世音菩薩そくじかんぜおんぼさ

愍諸四みんしよし

衆しゅう

及於天龍ぎゅうおてんりゅう

人非人等にんびにんとう

受其瓔珞じゆごようらく

分作ぶんさ

二分にぶん

一分奉釈迦牟尼仏いちぶんぶしやくかむににぶつ

一分奉多宝仏塔いちぶんぶたほうぶつとう

無尽意觀世音菩薩むじんにかんぜおんぼさ

有如是自在神力うによぜじざいじんりき

遊於ゆうお

娑婆世界しゃばせかい

弘 <small>ぐ</small>	汝 <small>によ</small>	具 <small>ぐ</small>	仏 <small>ぶつ</small>	世 <small>せ</small>	爾 <small>に</small> 時 <small>じ</small> 無 <small>む</small> 尽 <small>じん</small> 意 <small>に</small> 菩 <small>ぼ</small> 薩 <small>さ</small> 以 <small>い</small> 偈 <small>げ</small> 問 <small>もん</small> 曰 <small>わつ</small>
誓 <small>ぜい</small>	聽 <small>ちやう</small>	足 <small>そく</small>	子 <small>し</small>	尊 <small>そん</small>	
深 <small>じん</small>	觀 <small>かん</small>	妙 <small>みやう</small>	何 <small>が</small>	妙 <small>みやう</small>	
如 <small>によ</small>	音 <small>のん</small>	相 <small>そう</small>	因 <small>いん</small>	相 <small>そう</small>	
海 <small>かい</small>	行 <small>ぎやう</small>	尊 <small>そん</small>	緣 <small>ねん</small>	具 <small>ぐ</small>	
歷 <small>りやく</small>	善 <small>ぜん</small>	偈 <small>げ</small>	名 <small>みやう</small>	我 <small>が</small>	
劫 <small>こう</small>	応 <small>のう</small>	答 <small>とう</small>	為 <small>い</small>	今 <small>こん</small>	
不 <small>ふ</small>	諸 <small>しよ</small>	無 <small>む</small>	觀 <small>かん</small>	重 <small>じゆう</small>	
思 <small>し</small>	方 <small>ほう</small>	尽 <small>じん</small>	世 <small>ぜ</small>	問 <small>もん</small>	
議 <small>ぎ</small>	所 <small>しよ</small>	意 <small>に</small>	音 <small>おん</small>	彼 <small>び</small>	

或わく 念ねん 假け 心しん 我が 侍じ

漂ひょう 彼び 使し 念ねん 為い 多た

流りゅう 觀かん 興こう 不ふ 汝によ 千せん

巨こ 音のん 害がい 空くう 略りやく 億のく

海かい 力りき 意い 過か 說せつ 仏ぶつ

龍りゅう 火か 推すい 能のう 聞もん 発ほつ

魚ぎよ 坑きやう 落らく 滅めつ 名みやう 大だい

諸しよ 變へん 大だい 諸しよ 及ぎゆう 清しやう

鬼き 成じやう 火か 有う 見けん 淨じやう

難なん 池ち 坑きやう 苦く 身しん 願がん

或わく 念ねん 或わく 念ねん 或わく 念ねん

値ち 彼び 被ひ 彼び 在ざい 彼び

怨おん 觀かん 悪あく 觀かん 須しゆ 觀かん

賊ぞく 音のん 人にん 音のん 弥み 音のん

繞にやう 力りき 逐ちく 力りき 峯ぶ 力りき

各かく 不ふ 墮だ 如によ 為い 波は

執しゆう 能のう 落らく 日にち 人にん 浪ろう

刀とう 損そん 金こん 虚こ 所しょ 不ふ

加か 一いち 剛ごう 空くう 推すい 能のう

害がい 毛もう 山せん 住じゆう 墮だ 没もつ

呪しゅ 念ねん 或わく 念ねん 或わく 念ねん

詛そ 彼び 囚しゅう 彼び 遭そう 彼び

諸しよ 觀かん 禁きん 觀かん 王おう 觀かん

毒どく 音のん 枷か 音のん 難なん 音のん

藥やく 力りき 鎖さ 力りき 苦ぐ 力りき

所しよ 糶しゃく 手しゅ 刀とう 臨りん 咸げん

欲よく 然ねん 足そく 尋じん 刑ぎょう 即そく

害がい 得とく 被ひ 段だん 欲よく 起き

身しん 解げ 杻ちゅう 段だん 寿じゅ 慈じ

者しゃ 脱だつ 械かい 壞え 終しゅう 心しん

蚘がん 念ねん 若にやく 念ねん 或わく 念ねん

蛇じゃ 彼び 悪あく 彼び 遇ぐう 彼び

及ぎゆう 觀かん 獸じゆう 觀かん 悪あく 觀かん

蝮ふつ 音のん 困い 音のん 羅ら 音のん

蠍かつ 力りき 繞によう 力りき 刹せつ 力りき

氣け 疾しつ 利り 時じ 毒どく 還げん

毒どく 走そう 牙げ 悉しつ 龍りゆう 著じやく

煙えん 無む 爪そう 不ふ 諸しよ 於お

火か 辺へん 可か 敢かん 鬼き 本ほん

燃ねん 方ぼう 怖ふ 害がい 等とう 人にん

具ぐ 觀かん 衆しゆ 念ねん 雲うん 念ねん

足そく 音のん 生じやう 彼び 雷らい 彼び

神じん 妙みやう 被ひ 觀かん 鼓く 觀かん

通つう 智ち 困こん 音のん 掣せい 音のん

力りき 力りき 厄やく 力りき 電でん 力りき

広こう 能のう 無む 応おう 降かう 尋じん

修しゆう 救ぐ 量りやう 時じ 雹ばく 声じやう

智ち 世せ 苦く 得とく 澍じゆ 自じ

方ほう 間けん 逼ひつ 消しょう 大だい 回え

便べん 苦く 身しん 散さん 雨う 去こ

無^む 悲^ひ 真^{しん} 生^{しやう} 種^{しゆ} 十^{じつ}

垢^く 觀^{かん} 觀^{かん} 老^{ろう} 種^{じゆ} 方^{ぼう}

清^{しやう} 及^{ぎやう} 清^{しやう} 病^{びやう} 諸^{しよ} 諸^{しよ}

淨^{じやう} 慈^じ 淨^{じやう} 死^し 惡^{あく} 国^{こく}

光^{こう} 觀^{かん} 觀^{かん} 苦^く 趣^{しゆ} 土^ど

慧^え 常^{じやう} 広^{こう} 以^い 地^じ 無^む

日^{にち} 願^{がん} 大^{だい} 漸^{ぜん} 獄^{ごく} 刹^{せつ}

破^は 常^{じやう} 智^ち 悉^{しつ} 鬼^き 不^ふ

諸^{しよ} 瞻^{せん} 慧^え 令^{りやう} 畜^{ちく} 現^{げん}

闇^{あん} 仰^{ごう} 觀^{かん} 滅^{めつ} 生^{しやう} 身^{しん}

妙みょう 念ねん 諍じょう 澍じゅ 悲ひ 能のう

音おん 彼び 訟しょう 甘かん 体たい 伏ぶく

観かん 観かん 經きょう 露ろ 戒かい 災さい

世ぜ 音のん 官かん 法ほう 雷らい 風ふう

音おん 力りき 処じょ 雨う 震しん 火か

梵ぼん 衆しゅう 怖ふ 滅めつ 慈じ 普ふ

音のん 怨おん 畏い 除じょ 意い 明みょう

海かい 悉しつ 軍ぐん 煩ぼん 妙みょう 照しょう

潮ちよう 退たい 陣じん 惱のう 大だい 世せ

音おん 散さん 中ちゆう 燄えん 雲うん 間けん

爾 <small>に</small>	福 <small>ふく</small>	具 <small>ぐ</small>	於 <small>お</small>	念 <small>ねん</small>	勝 <small>しょう</small>
時 <small>じ</small>	聚 <small>じゅ</small>	一 <small>いつ</small>	苦 <small>く</small>	念 <small>ねん</small>	彼 <small>ひ</small>
持 <small>じ</small>	海 <small>かい</small>	切 <small>さい</small>	惱 <small>のう</small>	勿 <small>もつ</small>	世 <small>せ</small>
地 <small>じ</small>	無 <small>む</small>	功 <small>く</small>	死 <small>し</small>	生 <small>しょう</small>	間 <small>けん</small>
菩 <small>ぼ</small>	量 <small>りょう</small>	徳 <small>どく</small>	厄 <small>やく</small>	疑 <small>ぎ</small>	音 <small>のん</small>
薩 <small>さ</small>					
即 <small>そく</small>	是 <small>ぜ</small>	慈 <small>じ</small>	能 <small>のう</small>	觀 <small>かん</small>	是 <small>ぜ</small>
從 <small>じゅう</small>	故 <small>こ</small>	眼 <small>げん</small>	為 <small>い</small>	世 <small>ぜ</small>	故 <small>こ</small>
座 <small>ざ</small>					
起 <small>き</small>	應 <small>おう</small>	視 <small>し</small>	作 <small>さ</small>	音 <small>おん</small>	須 <small>しゆ</small>
	頂 <small>ちやう</small>	衆 <small>しゆ</small>	依 <small>え</small>	淨 <small>じやう</small>	常 <small>じやう</small>
前 <small>ぜん</small>	礼 <small>らい</small>	生 <small>じやう</small>	怙 <small>こ</small>	聖 <small>しやう</small>	念 <small>ねん</small>
白 <small>びやく</small>					
仏 <small>ぶつ</small>					
言 <small>ごん</small>					

世尊せそん

若有衆生にやくうしゅじょう

聞是觀世音菩薩品もんぜかんぜおんぼさほん

自在じざい

之業しごう

普門示現ふもんじげん

神通力者じんづうりきしゃ

当知是人とうちぜにん

功く

德不少どくふしょう

仏說是普門品時ぶつせつぜふもんぼんじ

衆中八万四千衆しゅうちゅうはちまんしせんしゅ

生じょう

皆發無等等阿耨多羅三藐三菩提心かいほつむとうどうあのかたらさんみやくさんぼだいしん

普ふ 回え 向こう

願ねがくば此この功徳くどくを以もつて普あまねく一切いっさいに及およぼし

我われ等らと衆生しゅじようと皆共みなともに佛道ぶつどうを成じようぜんことを

十方じつぽう三世さんぜ一切いっさいの諸佛しよぶつ 諸尊しよそん菩薩ぼさつ摩訶まか薩さつ

平成二十八年五月一日 発行

観音経

発行所

名古屋市中区栄三丁目二十五の十八

臨濟宗妙心寺派

白林寺内

名古屋禅センター

電話 〇五二二四一五二〇〇

〒 四六〇一〇〇〇八

